

「チュニジアにみるアラブの春の10年」

駒澤大学 山中達也

岡山AALA主催

「中東・北アフリカの最新動向を学ぶ」
(2021.9.11) オンライン開催

目次

【はじめに】 チュニジアの基礎情報 + a

1. 革命開始後10年のタイムライン

2. 課題①未解決の若年層失業問題

課題②以降は、日本AALA国際学術合同部会「コロナ禍と米中対立下のAALA地域の情勢と人民のたたかいをどうみるか」
(2021.7.8) オンライン開催) 山中報告資料参照

【はじめに】
チュニジアの基礎情報 + a

表1 北アフリカ地域の主な経済・社会指標の比較

	一人当たり 国民総所得 (ドル)	貧困率 (1)	貧困率 (2)	栄養失調 の人口比 率	ジニ係数	人間開発 指数 (順位)
エジプト	2690	3.8	72.6	4.7	31.5	116
リビア	7640	N/A	N/A	N/A	N/A	110
チュニジア	3360	0.2	17.5	2.5	32.8	91
アルジェリア	3970	0.4	28.6	2.8	27.6	82
モロッコ	3190	0.9	30.2	4.3	39.5	121
モーリタニア	1660	6.0	58.8	11.9	32.6	161
西サハラ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A

(出所) UNDP (2019) ; World Bank (2019, 2020) より作成。

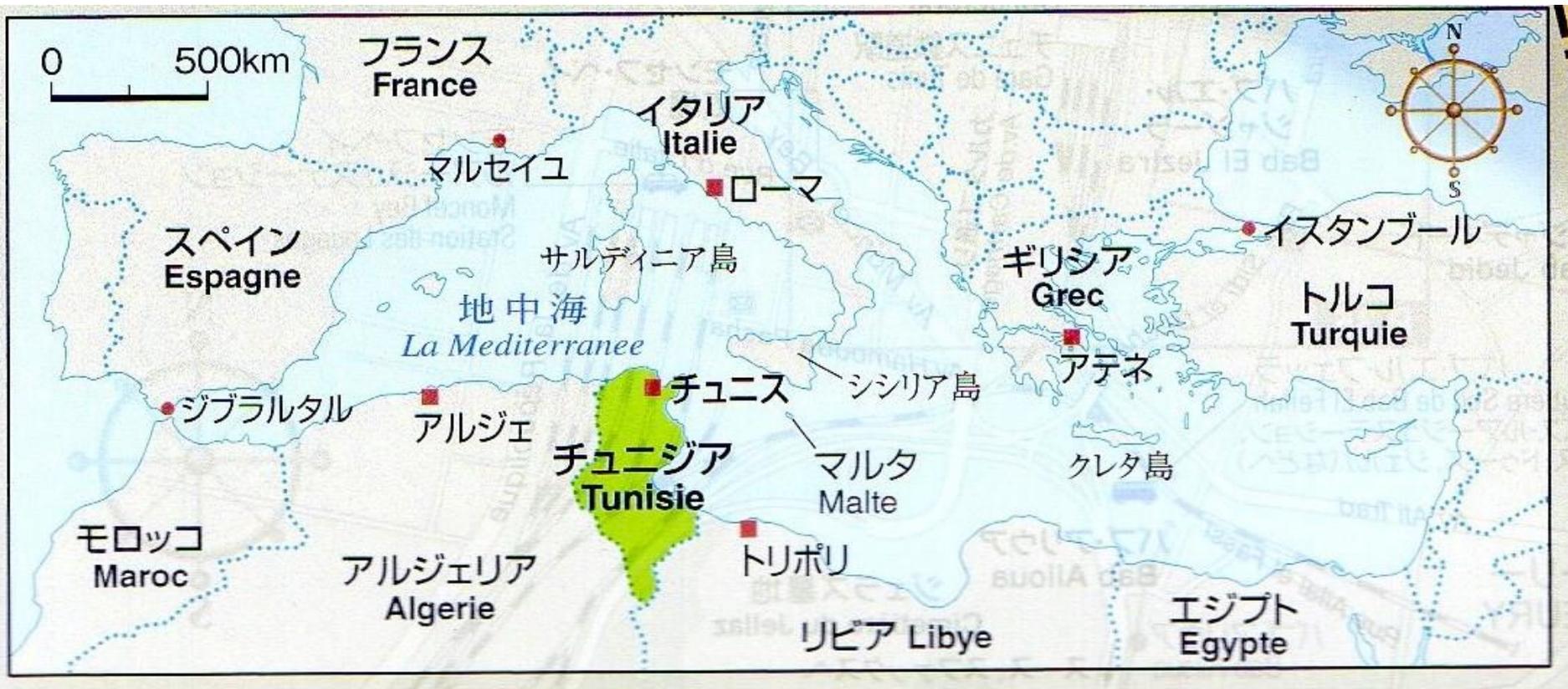
(注) 貧困率 (1) は、1日1.9ドル以下で生活する人口比率であり、(2) は、1日5.5ドル以下で生活する人口比率を示している。また、各統計の年度については本文に記した通りである。

「中間層70%、貧困層は4%」

- 1日2ドル以下で生活する**貧困層の割合減少!**
2000年：12.8% **2010年：4.3%** 2019年：0.2%
(2019年は1.9ドル以下)
- 1日5.5ドル以下で生活する貧困層：17.5% (2019年)
- 一人当たり国民総所得 (GNI)：3360ドル (2019年)
- 栄養失調の人口比率：2.5% (2018年)
- ジニ係数 (所得格差)：32.8 (2015年)
- 人間開発指数 (HDI)：91位 (2018年)

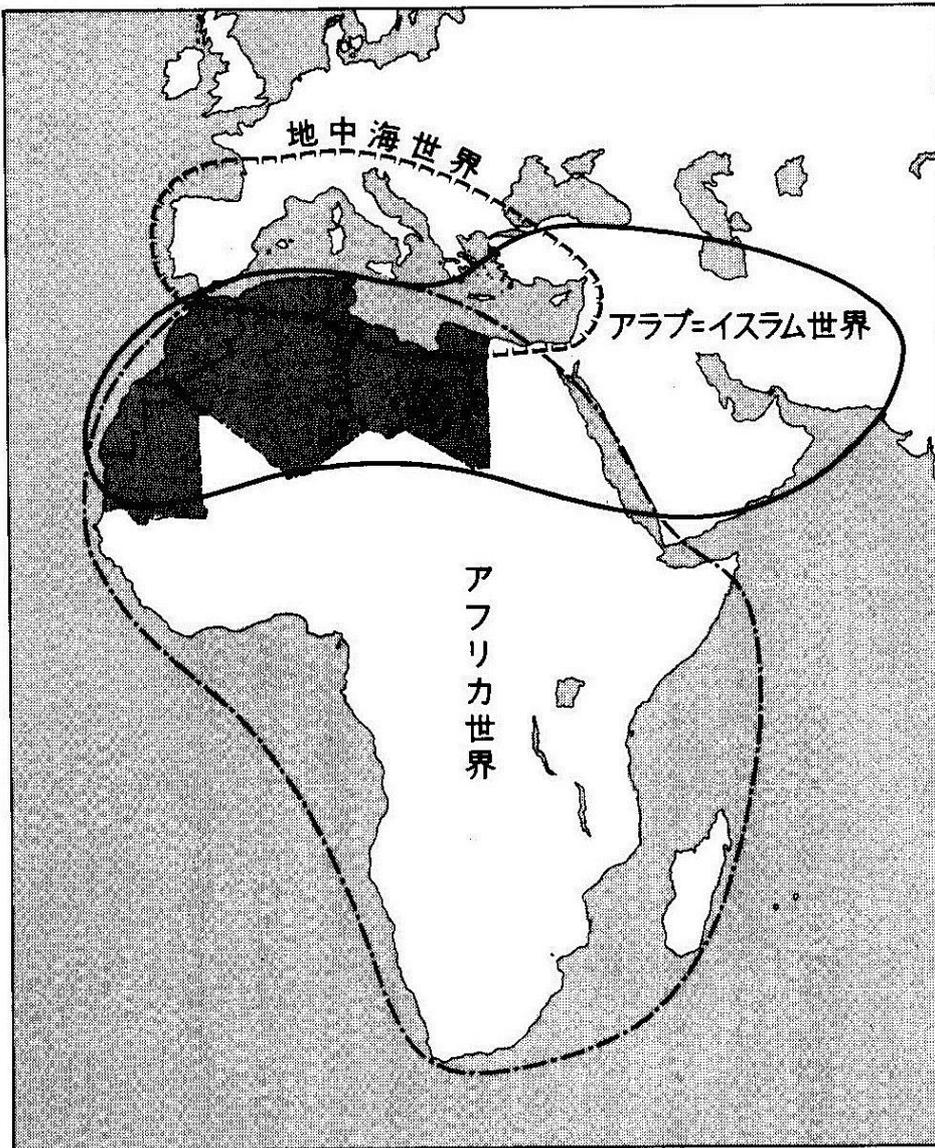
(出所) World Bank, UNDP

地中海諸国とチュニジア



(出所) 『地球の歩き方 2015～2016 チュニジア』ダイヤモンド社、巻頭ページ。

三つの世界が交差するマグレブ



(出所) 宮治一雄 [1978] 『アフリカ現代史Ⅴ 北アフリカ』
山川出版社、13ページ。

チュニス中心街（イブン・ハルドゥーン像）



ローマ遺跡と地中海リゾート



中部 ブラレジア遺跡にて



中部のオリーブ畑



チュニジア南部



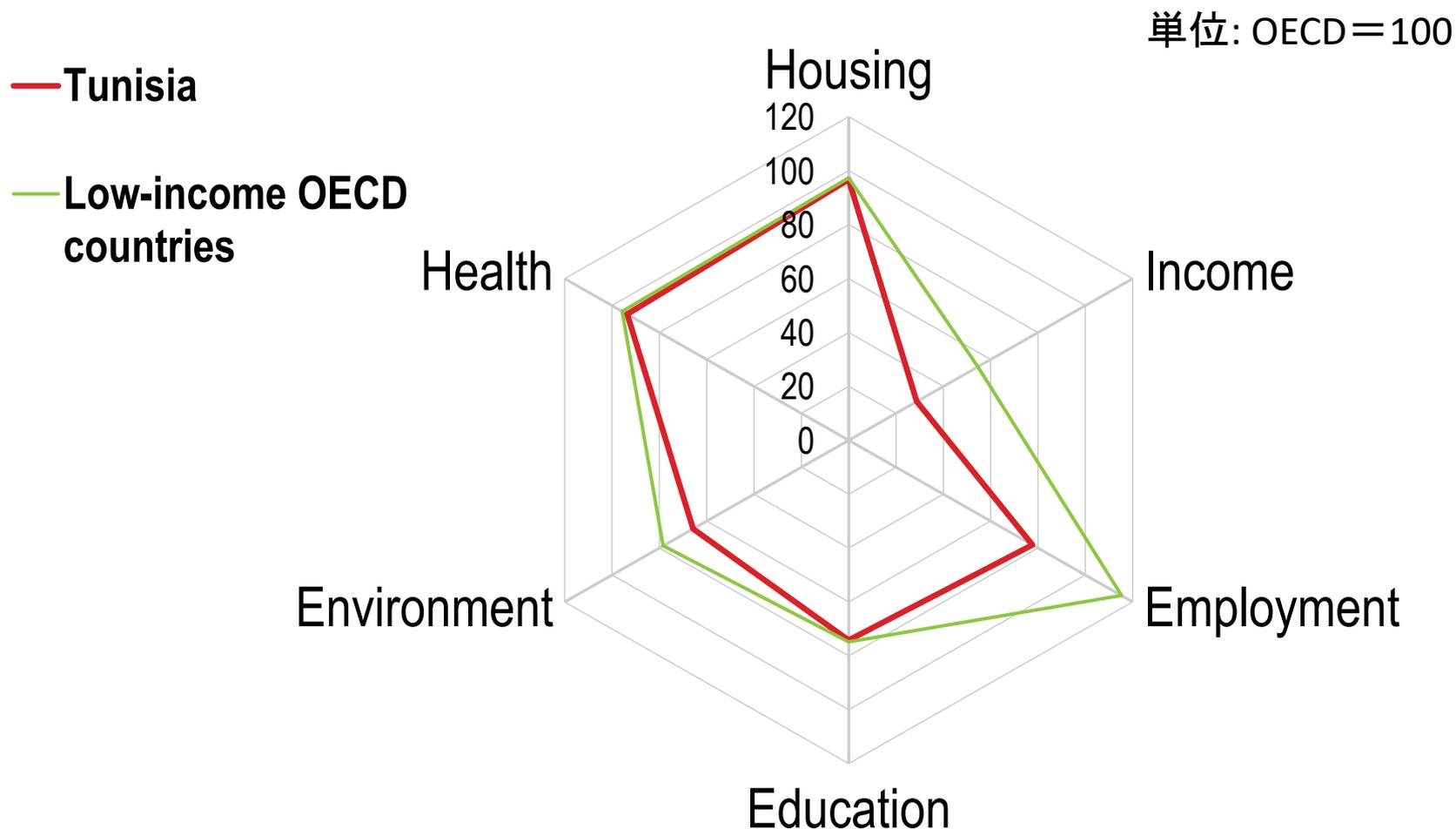
チュニジア料理、クスクス



主食のバゲットとパスタ類



図1. 国民の福祉・生活環境に関する指標 (2015年)



(出所) OECD (2018: 18)

大規模反政府デモ発生 (2010～2011)

- 中東・北アフリカ諸国における一連の反政府・民主化運動と長期独裁政権の崩壊
- **いわゆる「アラブの春」はまさにそのチュニジアから始まった**
- 大いなる経済発展を遂げ、政情も安定していたはずの同国において、**なぜ民衆は立ち上がり、政権打倒を叫んだのか？**

パンを掲げデモを行う民衆



(AFP/Getty Images)

チュニジア民衆革命を象徴する一枚



(Fred Dufour/AFP/Getty Images)

破壊されたベン・アリ親族の豪邸



革命の背景として指摘された主要因

- ① **ベン・アリ独裁政権**（為政者一族と取り巻きたち）の腐敗（**汚職・不正蓄財**）

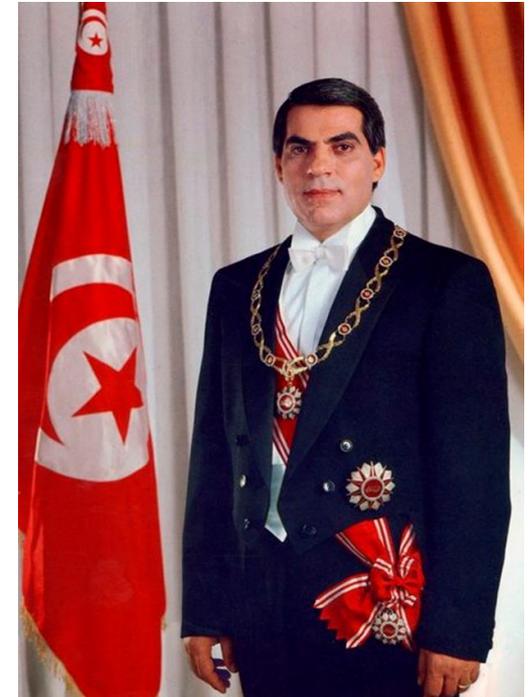
表2. チュニジア経済においてベン・アリー族企業が占めた割合（2010）

賃労働者	生産高	純利益	粗利益	企業数
1.7%	5.3%	15.8%	10.8%	0.2%

（出所）OECD 2018:13より作成。

- ② **強権的な治安維持の手法**・**表現の自由の剥奪**
- ③ **2008年世界金融危機**以降の景気後退

ベン・アリ政権の腐敗



(出所) Reuters

ザイン・アル＝アービディーン・ベン・アリー(1936～2019)
(出所) World Press.com

- 金融、マスメディア、観光、運輸、製造業、エネルギー産業など**国内の主要産業**が「マフィア」と称されるベン・アリ夫人家族（トラベルシ）と、**一部の政治・経済エリートに掌握されていた**

独裁者が去り、民主化へ

- **ベン・アリの排除 = 経済・社会情勢の好転** という民衆の強い思い

「ベン・アリー族や取り巻きたちはチュニジアの富を収奪していた。

彼らを追い出した今、チュニジアはさらに発展する」 (市民へのインタビューから)

1. 革命開始後10年の タイムライン（政治・社会）

2011年：民主化プロセス開始

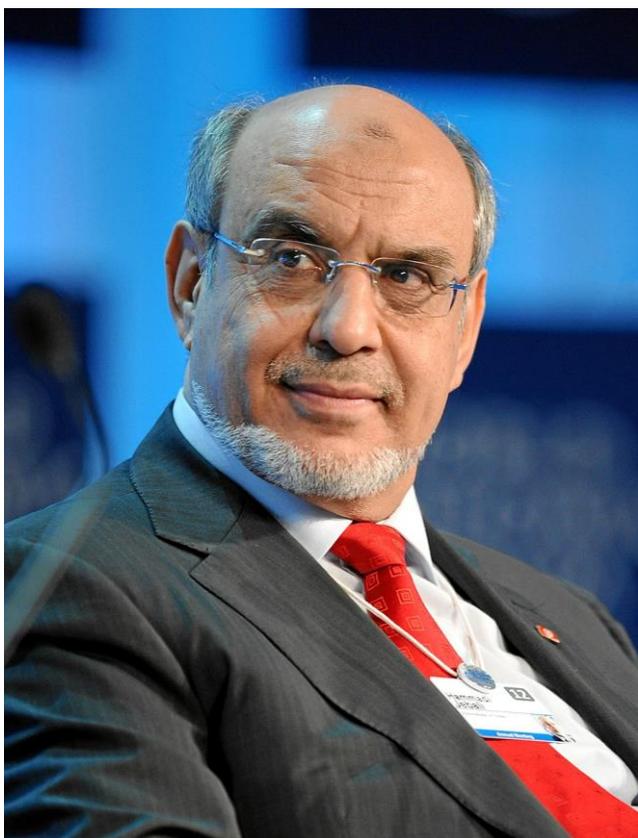
10月：制憲議会選挙を実施

- 「**穏健派**」イスラーム主義政党のエンナハダが、217議席中89議席を獲得し**第一党に**
- 世俗派の共和国会議（CPR）が第二党、左派政党エタカトル（FDTL）が第三党となり、新憲法制定に向け、エンナハダと連立与党を組む

11月、12月：議会の開会、組閣

- CPRのマルズーキ党首が大統領に就任し、エンナハダのジェバリ幹事長を首相に任命、エタカトルのジャアファル党首が議長となる

ハマディ・ジェバリ首相
(エンナハダ)



モンセフ・マルズー
キ暫定大統領
(CPR)



2012年：イスラーム主義者と世俗派の間で対立が深まる

- 特に女性の権利をめぐる意見が分かれる
- エンナハダの本来の方針は、新憲法下におけるイスラーム法の適用



チュニジアでは1956年に制定された身分法(CSP)によって一夫多妻制が廃止され、男性側からの一方的な離婚および強制結婚が禁止された。まさにこの法律を契機としてチュニジア人女性はイスラーム世界において例外的な存在となっていくた。1959年には選挙権が与えられ、1973年からは人工中絶も認められた。

アンナハダ党首ラシッド・ガンヌーシ
(出所) REUTERS/Zoubeir Souissi

2013年：野党党首の暗殺

2月：エンナハダ政権を徹底的に批判していた民主愛国者運動党の党首ベライードが自宅前で何者かに殺害される

7月：人民党運動幹部のブラヒミが自宅前で射殺される

→ **エンナハダは国民からの厳しい批判に晒され、議会解散を求める抗議運動が高まり、混乱拡がる**



(出所) Anis Mili/Reuters

2013年：4団体による民主化支援

8月～：チュニジア労働総連盟（UGTT）、工業・手工業連合会（UTICA）、人権擁護連盟（LTDH）、全国弁護士協会（ONAT）の4団体が、**与野党間協議の仲介役となり**、テクノクラート内閣の組閣や憲法制定、独立高等選挙機構（選挙管理委員会）設置等の主要政治日程を定めた**ロードマップ**を提示

11月：主要21政党がロードマップに署名し、国民対話会議（与野党間協議）開始

12月：ジヨマア産業大臣（当時）が次期首相に選出された

（出所）外務省

2014年：新憲法制定、議会・大統領選挙

1月：議会は新憲法を承認、市民国家を前面に打ち出す（個人の自由、マイノリティの権利保護、大統領と首相の権限の分割）

10月：**国民議会選挙実施**（投票率68%）、2012年に結党された「ニダー・トゥーネス（チュニジアの呼びかけ）」が217議席中85議席を獲得し第一党に、エンナハダは69議席で第二党となった

11月、12月：**革命後初の直接大統領選挙**（1次投票率64%）ニダー・トゥーネス党首の**カイド・エセブシ**
（1926～2019）が大統領就任



（出所）Aljazeera、外務省、Anadolu agency

2015年：「新生」チュニジアで頻発するテロ

2月：元内務相のエシード氏首相率いるニダー・トゥーネス、エンナハダ、自由愛国連盟（UPL）、アフエック・トゥーネス等からなる連立内閣が成立し、**革命後初の本格政権が発足**

3月18日：イスラーム過激派によるバルドー博物館襲撃事件（日本人3名含む22名が犠牲に）



（出所）Aljazeera、外務省、Guardian

スース観光ホテル襲撃事件（2015年6月28日）



チュニス自爆攻撃 (2015年11月24日)



スース観光ホテル襲撃事件

- 新憲法制定と新たな大統領の誕生によりチュニジアの「革命」は前進したと評価される
- しかしチュニジアの実情を示す象徴的事件
- 外国人38名（内イギリス人30名）が犠牲に
- **実行犯**はイスラーム教の聖地ケロアンにある**工学技術高等学院（ISET）の大学院生（23歳）**
- チュニジアで最も貧しい県の一つであるシリアナ県のガーフル出身

ISに引き寄せられる者たち

(3) 近年のグローバル・ジハードの展開（邦人被害、欧州中心）

イナメナス事件（2013年1月）

シャルリー・エブド襲撃事件（2015年1月）

シリア人質殺害事件（2015年1月）

バルドー博物館襲撃事件（2015年3月）

パリ同時多発テロ事件（2015年11月）

ブリュッセル連続テロ事件（2016年3月）

ダッカ・レストラン人質殺害事件（2016年7月）

ニース・トラックテロ事件（2016年7月）

2015年12月：ノーベル平和賞受賞



(出所) The Nobel Prize

- 2015年12月、チュニジアの民主化を支えた功績が称えられ市民からなる「**国民対話カルテット**」に**ノーベル平和賞** ➔ 「民主化の優等生」として

2016年：チュニジア軍による掃討作戦の本格化

ベンガルデン武装攻撃を受けて（2016年3月7日）



リビア国境の街 ベン・ガルデン

TUNISIA

BEN GARDANE

LIBYA

(出所) Al Jazeera and agencies

2016年、2017年、2018年： 新内閣発足も経済情勢は悪化の一途

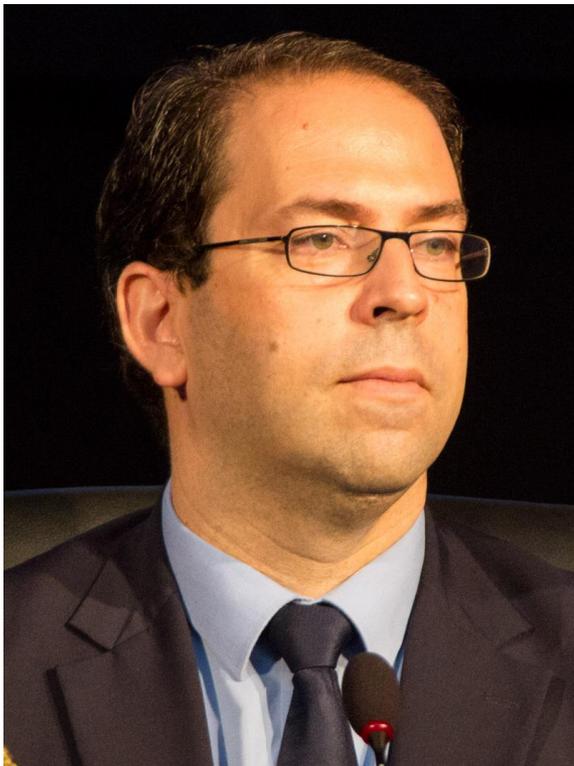
2016年6月：エセブシ大統領が「国民統一政府」構想を発表、各政党及び国内主要団体（UGTT、UTICA等）による協議

2016年8月：シェーヘッド地方問題担当大臣（当時）が率いる新内閣が発足

2017年12月：**累積債務増大、貿易赤字、通貨下落、失業率高止まり → 経済危機高まる**

2018年5月：革命後初の地方選挙、投票率は35.6%

- ・無所属候補者が32.9%の得票率で2,367議席獲得
- ・連立与党第2党エンナハダが29.7%で2,135議席
- ・最大与党の世俗派ニダ・トゥーネスは22.7%で1,595議席にととまる
- ・全議席の47%が女性議員で、37%が35歳以下
- ・首都チュニスで初の女性市長（エンナハダ）誕生



（出所）ITU

（出所）IMF、World Bank、JETRO、外務省

2019年： カイス・サイード新大統領誕生

6月：シェーヘッド首相、新党党首に（ニダー・トゥーネス党の分裂）

7月：エセブシ大統領逝去 大統領選前倒し

9月：大統領選挙1次投票（投票率45%）

無所属の**法学者**（新憲法制定に携わった）**カイス・サイード**（61歳）と、2019年に発足した新党カルブ・トゥネス（チュニジアの心）党首で「メディア王」の**ナビル・カルウィ**（56歳）が決選投票に進む（同氏は脱税とマネーロンダリングの罪で収監される）。

10月：カイス・サイードが72.7%の得票率（投票率約58%）で当選

※政治の透明化と地方分権を主張し若年層の高い支持獲得

（出所）JETRO、外務省

2019年、2020年： 議会は18党で構成、反エンナハダが結集

2019年10月：

国民議会（定数217）選挙では、第1党エンナハダ党が17議席失ったが52議席で第一党
カルブ・トゥネス（チュニジアの心）党が38議席で躍進

カイス・サイード新大統領（1958～）



（出所）Fethi Belaid / AFP

**2020年1月：与党エンナハダ推薦のハビブ・ジェムリ首相の
組閣後すぐに不信任投票（複数の左派政党・無党派による）**

➡ 全209票のうち、不信任134、信任72、棄権3

2020年：

サイド大統領の指名によりファフフーフ内閣誕生

2月：新内閣の信任投票が行われ、賛成129票、反対77票、棄権1票で信任された

女性閣僚は4人にとどまったが、アラブ諸国で初めて女性の法相が誕生



(出所) France 24

32閣僚のうち15人は無党派、残り17人は各政党の出身者で構成。第1党（54議席）のエンナハダ党から6人、ほか5党から11人入閣した → 「組閣作業が難航したことを受け、内閣の構成も保守派と急進派が混在し、無党派が約半数を占めるなど、今後の政権運営に困難が予想される」

(出所) 渡辺智子（2020）JETRO「ビジネス短信」3月10日付。

2020年：メシーシー内務相が首相に就任、 コロナ対応に苦戦

7月：議会でアンナハダから汚職を追及された**ファフファーフ首相**は、エンナハダ出身閣僚を解任した上で**辞任**

8月：**メシーシー氏**は、サイド大統領就任以降、法務担当第1顧問を務めた高級官僚。

大統領主導で政治色の薄い実務家や学者を多くの閣僚に任命



(出所) Africa 24

優先課題：財政の立て直し、行政改革、貧困対策

主幹産業の1つであるリン鉱石生産は、2011年の革命以降、継続的に発生する失業者のストや新型コロナウイルスの影響で可能生産量の30%に落ち込んでおり、その立て直しと、近年期待されている南部の石油・天然ガス生産により、国家収入を増大させ財政を立て直すことを最優先課題とした。

また、行政機関のデジタル化により効率化と透明性の強化を図って行政改革を行い、同時にチュニジアのデジタル産業を後押しする。

(出所) 渡辺智子 (2020) JETRO「ビジネス短信」9月10日付。

2021年：全国各地で暴動・デモ続発

1月：内閣改造 → 実務型から**国会主導型**へ（権力闘争？）
エンナハダ党首で国会議長のガンヌーシ（2019年11月～）が
暗躍か



全国で政府の雇用・失業対策、コロナ対応、汚職・縁故主義等を糾弾する抗議運動が過激化

（出所） Fathi Nasri/ AFP、Aljazeera

新政府批判とベン・アリ時代懐古

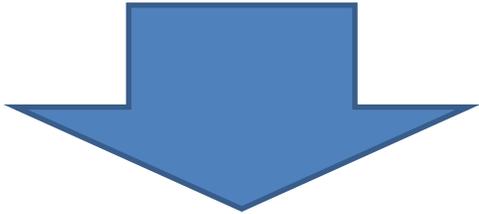
- ジハーディズムと距離を置く若者たちの間でも、**2011年の革命は「無駄だった」という言説が飛び交い**、いまだ国中を跋扈する縁故資本家らへの不満が噴出



- 有効な対策を講じられずにいる政府への批判が高まり、**デモやストライキが頻発**
- 皮肉なことに、抑圧的ではあるが治安維持に長け、観光客及び外資誘致を積極的に実践した**ベン・アリ政権の再評価の動きまで見られる**

2021年：サイード大統領が首相解任、議会停止

7月25日：共和国祭に合わせて
全国規模の反政府デモが拡大

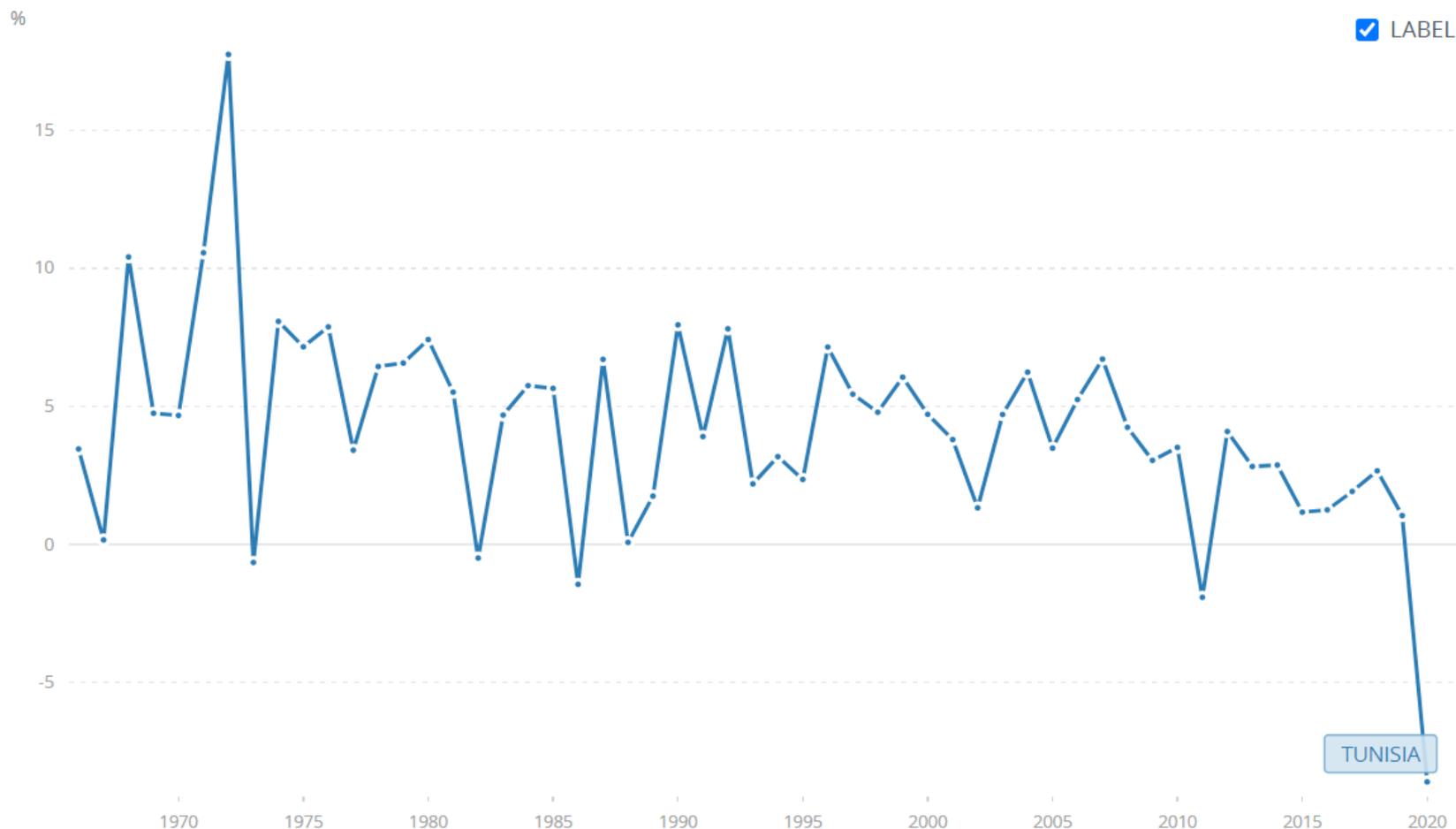


サイード大統領は、緊急事態時の大統領特別措置（憲法第80条）を適用し、ムシーシー首相の解任、議会の30日間活動停止、国会議員の免責特権はく奪を発表

エンナハダは民主主義に対する「クーデタ」として徹底的に批判、都市部の若年層の多くは大統領の措置を歓迎

※2021年9月現在も続いている

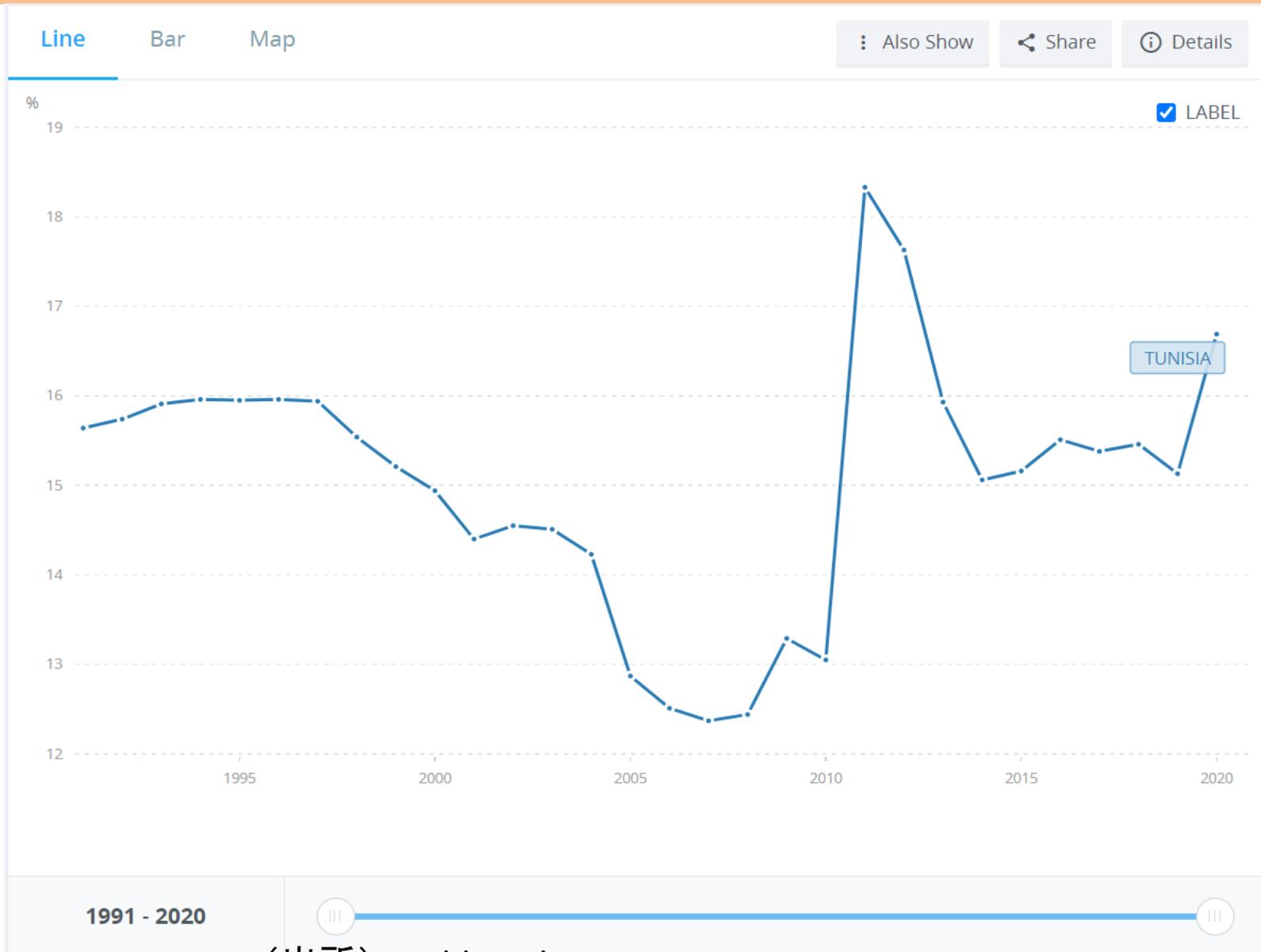
GDP成長率 (1966-2020)



1966 - 2020

(出所) World Bank

完全失業率 (1991-2020)



Covid-19関連の統計

チュニジア

感染者の合計数

680,074

新規感染者数 (14日間)



8月27日～9月9日: +29,039

死亡者数

24,041

合計接種数

6,292,293

新規接種数 (14日間)



8月26日～9月8日: +1,206,222

必要回数のワクチン接種完了

2,560,775

人口比: 21.8%

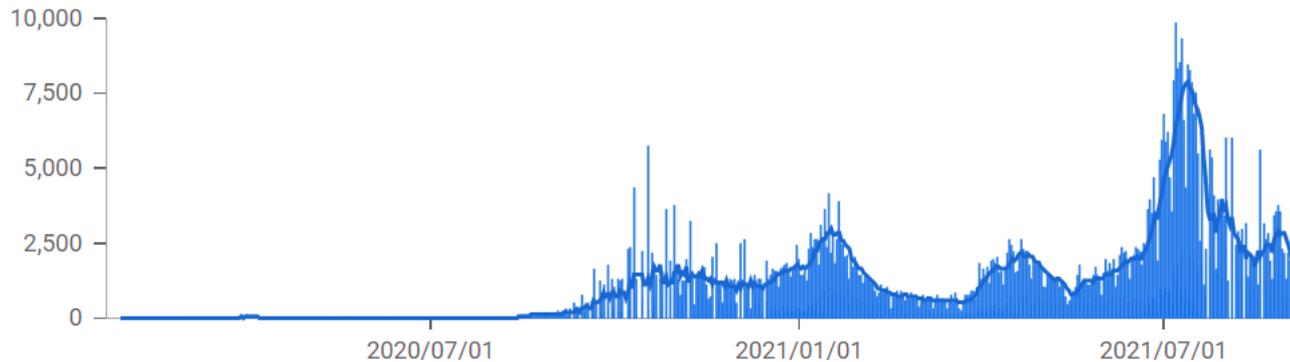
感染者数

チュニジア

感染者数:

新規

合計



「各日」は前日以降に新たに報告された感染者数を表します

更新: 2 日前 • [このデータについて](#) • ニュース提供元: [ジョンズ・ホプキンス大学](#)

2. 課題①

未解決の若年層失業問題

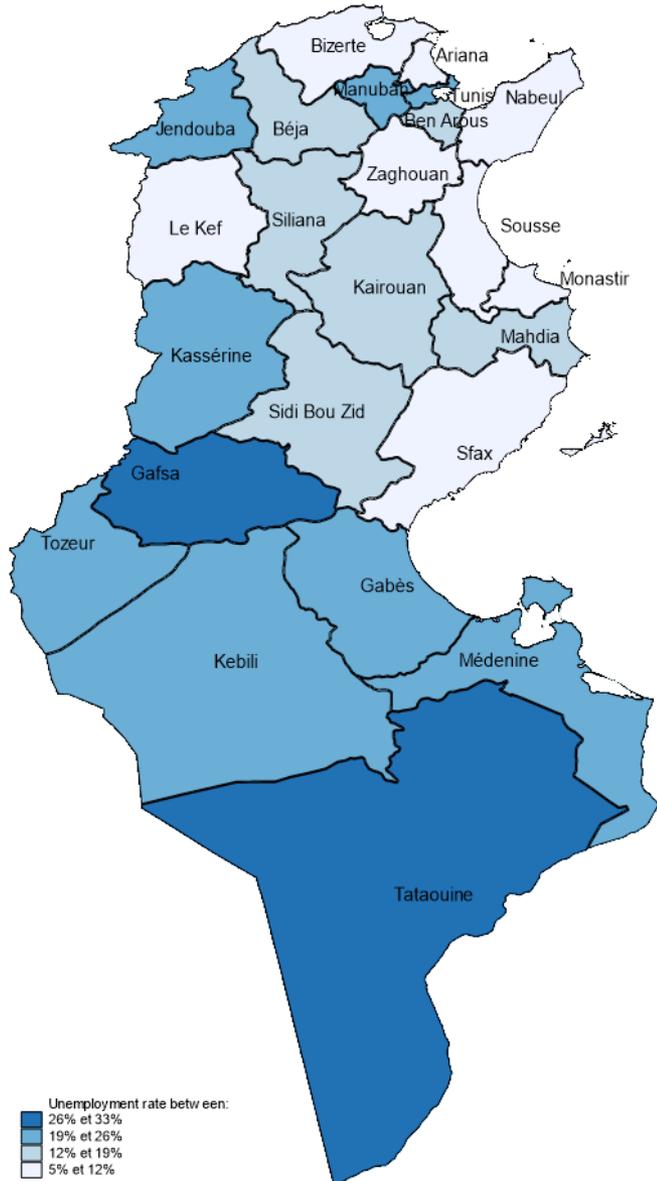
民主化後も残る若者の失業問題

- ① **失業率**：15.5%、**若年層**（15-24歳）は（**37.6%**）、高等教育を受けた者（33%）、1年以上の長期失業率（44.6%）、いずれも2016年
- インフォーマル部門：総雇用数の30%～45%

- ② **相対的に低い就業率**：39.8%
（**男性**：59.8%、**女性**：20.5%、2017年）
- ➔ OECD平均：66.9%（74.7%、59.3%）

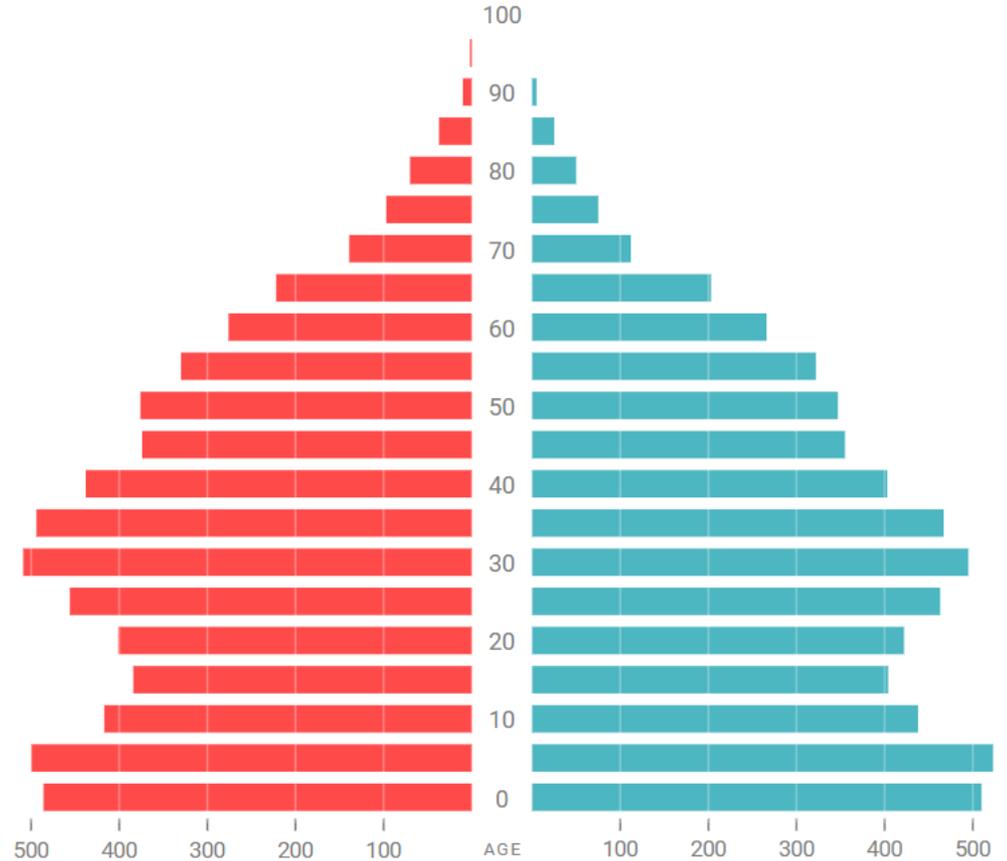
- ※チュニジアの女性生産年齢人口の実に74%は、非労働力人口（学生・家事・高齢者）

図2. 若年層の高失業率 (2018)



(出所) OECD

図3. 人口ピラミッド (2020)



(出所) UNFPA

表3. 労働市場のロゼッタストーン

労働力状態	時間利用	雇用形態・状態		ワーク・ステイタス	雇用の質	労働市場の種類
労働力人口	フルタイム労働	賃金労働		就業者	安定	公式、非公式
		自営業			不安定	
		無報酬、家内労働				
	パートタイム労働	自発的短時間労働				
		非自発的短時間労働 (不完全雇用)				
求職活動	失業	広義の失業	NEET			
無活動、家事労働	就業意欲喪失					
	非就業希望					
非労働力人口	学習、職業訓練	学生		学生		

出所：AfDB(2012:102)より作成。

大量のNEET

- 長期にわたる失業状態から希望を失い就業意欲を喪失した者（広義の失業者）と自発的に家事労働を行う（もしくは無活動）の者を包括的に**NEET**と定義
- チュニジアの場合、内陸部・南部地方及び都市部以外に住む高学歴女性の**NEET比率が極めて高い**



- ※女性の方が就業機会のより高い地域を求めて移動するというオプションが希薄 → 食料生産における家内労働としての女性の労働参加率は高い

農村部の女性

- チュニジア北西部の農業地帯に無数のコウノトリが生息することで有名なベジヤという街がある。ベジヤはチュニスからわずか110キロメートルの距離にあるが、この二つの都市の格差は凄まじい。
- ベジヤで働くのは女たちだ。男たちは失業していてカフェか家にいるのさ」。こうした評判をよく耳にする。ベジヤ統合・持続的開発協会で会長を務めるホスニ・アブデルカリムによれば〈チュニジアの大いなる忘れもの〉は農村地域の女性たちであるという。チュニジア総人口の34パーセントは農村地域に住んでいる。「チュニスでは女性について多くが語られていますが、農村地域で日々薪を運び、水を汲む彼女たちの生活など知る由もないのです」。

(出所) フローレンス・ボウジェ (2015) 「革命後チュニジアの女性たち—分断された社会—」 『ル・モンド・ディプロマティーク』 7月号

農村部の女性

- 「彼女たちは数ディナールを稼ぐためにどんな仕事でもします。畑仕事をはじめ、乳搾りなどの家畜の世話、パン作り…そしてトラックの荷台に無防備のまま家畜のように乗せられて、行く先も知らず移動するのです。男たちは賃金の低い仕事はやりたがりません。彼女たちには選択肢がないのです。それでも大抵の女性は働くことを選びます。仕事を持つことである程度自立することが出来るからです」
- (出所) フローレンス・ボウジェ (2015) 「革命後チュニジアの女性たち—分断された社会—」『ル・モンド・ディプロマティーク』7月号

チュニジアの若者達の証言

- 起業を目指す若者支援のための政府融資制度を利用する
イッサム・エルハリ（31歳）二児の父、チュニス郊外在住
- 「小さな金物店を開くために7000チュニジア・ディナール（約26万円）の融資を受けたが、固定金利が21%にも上り、やっていくのが困難だ。当局は若者を支援していると言うが、実際は私たちが食べ物にしている。私たちに未来はない」 （出所） Perrot 2019



Image by Yoshio Tomii Getty Images

抵抗する若者たち

- 世界で4番目の磷酸塩生産者であるチュニジアにおいて、南部ガフサ近郊アルミトラウィは、かつて「プティ・パリ」と呼ばれるほど栄えていた。
- しかし、同地域のケフエドゥール燐鉱山では、鉱山労働者たちが地域における公的独占企業ガフサ燐鉱業会社（CPG）の腐敗と搾取に抗い続けている。（出所）Perrot 2019



（出所）Middle East Eye



（出所）Egypt Independent

チュニジアの若者達の証言

- 鉱山労働者の娘で5人の子を持つスアッド・スマダアは、CPGの幹部や組合員らが近親者や繋がりのある者を優先的に雇用し続けるなか自身の子供たちの誰もCPG（のオフィス）で雇用されていないことに激しい憤りを感じている。



(出所) Reuters

現場鉱山労働者の賃金は著しく低い。彼女の長男は、パン屋として月給300ディナール(約100ユーロ)を稼いでいるが、それは鉱山労働者の平均月収の3倍に当たる。高校を出て以来失業状態にある25歳のアリ・ベン・マサラア(Ali Ben Msalah)は述べる。「ここには発展も雇用も余暇もない。あるのはCPGだけだ。移民となるか、死ぬか、刑務所に行くか、それが解決策だ」(Perrot 2018)。

地中海地域で行方不明もしくは死亡した難民・移民

Grandes routes migratoires

- Orange line: Côte concentrant les points de départ des migrants
- Red arrow: Principaux flux
- Red arrow with '2014-2016': Flux particulièrement élevés de fin 2014 à fin 2016 (conflit syrien)
- Red dashed line: Côtes concernées par l'afflux de migrants

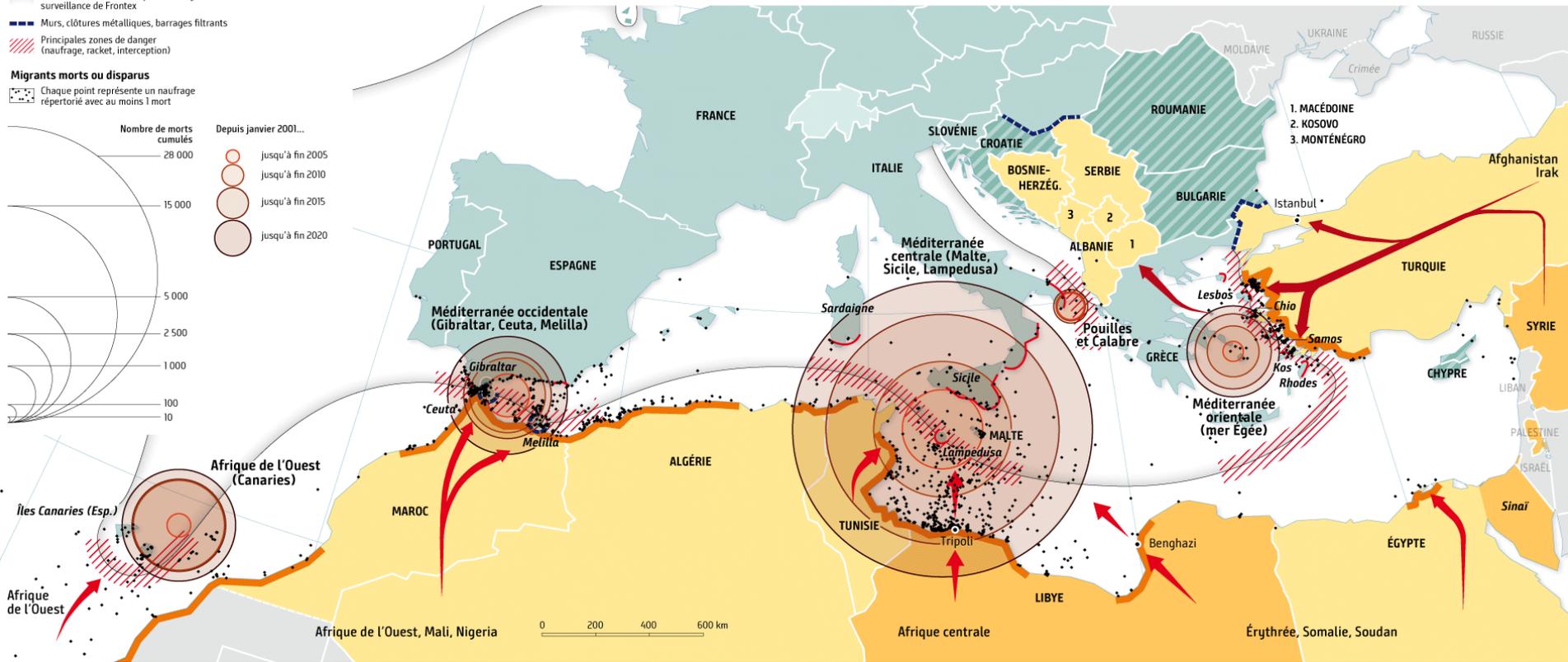
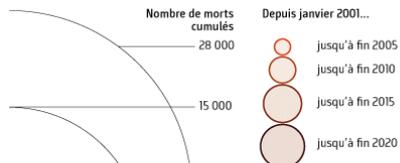
Obstacles dressés sur les parcours migratoires

- Grey line: Limites maritimes de l'espace Schengen, surveillance de Frontex
- Blue dashed line: Murs, clôtures métalliques, barrages filtrants
- Red hatched area: Principales zones de danger (naufrage, racket, interception)

Migrants morts ou disparus

- Black dots: Chaque point représente un naufrage répertorié avec au moins 1 mort

- Light green: Espace Schengen, dont pays associés à l'Union européenne, zone théorique de libre circulation
- Dark green: Autres pays de l'Union européenne
- Yellow: Principaux pays de transit des migrants
- Light blue hatched: Pays candidats à l'espace Schengen
- Orange hatched: Pays ou régions en conflit



Sources :
 Organisation internationale
 pour les migrations (OIM) :
<https://missingmigrants.iom.int> ;
www.themigrantsfiles.com
 Frontex : Migreurop

(出所) Le Monde Diplomatique, International Organization for Migration

チュニジアの高校生の証言

- AFPの取材に答えた高校生のハムザ・ディファリ (Hamza Dhifali) は、「私たちは、成熟した市民になるために革命を起こした。だが、私が革命から得たのは表現の自由だけだった」と語り、「(革命)以前は、自分を表現する自由はなかったが、今はできる。それは素晴らしいことだが、誰も耳を傾けてくれない」と述べている (Perrot 2019)



十分な成果の出ない新政府の政策

- 各種職業訓練や公務員の増大、IT部門など新規投資の促進など、さまざまな対策を行うも…
- 深刻な若年層失業率と不完全雇用、極めて高いNEET率…



- **革命の成果をめぐって人々の期待が高まっていた分、失望は大きかった！**

- **なぜ改善されないのか？ ➡ 補足資料参照**

「アラブの春」のチュニジアから問題提起

- 革命が起きても失業や不完全雇用といった問題は改善していない
- 自身が満足できる仕事や生きる術を求めて諸外国へ旅立つ若者が続出している
- アラブ・アフリカ地域で最も多いコロナ死者を出すなか、基幹産業の観光が停滞、出稼ぎ労働者からの移民送金、資源輸出への依存が高まる
- 「唯一の成功例」といわれた同国では経済危機のみならず政治的混乱が深刻化し民主化プロセス停滞
- イスラーム主義者や支持者の排除によって、混迷を深める諸国と同じ轍を踏むことになるか？それともチュニジアは解決策を見出せるのか？

主要参考文献

〈英語〉

- Aljazeera (2021) Tunisia's democracy is in crisis. Here's a timeline of key events, July 26.
<https://www.aljazeera.com/news/2021/7/26/sacking-of-tunisian-parliament-latest-step-along-bumpy-road-since>
- Assad, Ragui and Boughzala, Mongi ed. (2018) *The Tunisian Labor Market in an Era of Transition*, Oxford University Press.
- Habib Ayeub, Ray Bush (2019) *Food Insecurity and Revolution in the Middle East and North Africa: Agrarian Questions in Egypt and Tunisia*, Anthem Press.
- Ianchovichina, Elena (2018) *Eruptions of Popular Anger: The Economics of the Arab Spring and Its Aftermath*, World Bank Group.
- Isabel Schaefer (2018) *Political Revolt and Youth Unemployment in Tunisia: Exploring the Education-Employment Mismatch*, Palgrave Macmillan.
- OECD (2018) *Economic Surveys TUNISIA: Economic Assessment*, OECD Publishing, March.

主要参考文献

〈仏語〉

- Hammouda, Hakim Ben (1995) Tunisie : Ajustment et difficulté de l'insertion internationale, Forum du Tiers Monde, L' Harmattan.
- Romdhane, Mahmoud Ben (2018) Tunisie La Démocratie en quête d'Etat : ou comment reprendre la voie de la prospérité partagée, Sud Editions.

〈日本語〉

- 山中達也 (2019)「革命期チュニジアにおける若年層失業問題」『アジア・アフリカ研究』第59巻第2号、pp.1-27.
- 山中達也 (2020)「EU・チュニジアDCFTA交渉の政治経済的背景および争点について」『明大商学論叢』第102巻第3号、pp.149-170.
- 渡辺智子 (2020)「ファハファーハ内閣組閣、4カ月半の無政府状態に終止符 (チュニジア)」『ビジネス短信』JETRO, 3月10日付。
- 渡辺智子 (2020)「メシシ新内閣が発足、実務型で経済対策など取り組み (チュニジア)」『ビジネス短信』JETRO, 9月10日付。

主要参考URL

〈参考URL〉

- IMF (2019) World Economic Outlook,
〈<https://www.imf.org/external/datamapper/datasets/WEO>〉
2019年2月25日閲覧。
- Institut National de la Statistique, République Tunisienne.
〈<http://www.ins.nat.tn/>〉2019年2月25日閲覧。
- OECD Data (2019) Domestic value added in gross exports,
〈<https://data.oecd.org/trade/domestic-value-added-in-gross-exports.htm>〉2019年2月25日閲覧。
- Perrot, Caroline Nelly (2019)「『自由』を得た革命から8年、困窮する若者 チュニジア」AFP、1月25日。
〈<http://www.afpbb.com/articles/-/3207910>〉2019年1月26日閲覧。
- ——— (2018) Pour les jeunes du bassin minier tunisien, c'est la mine ou "la mort" FranceSoir, 20 mars.
〈<http://www.francesoir.fr/actualites-monde/pour-les-jeunes-du-bassin-minier-tunisien-cest-la-mine-ou-la-mort>〉2019年2月18日閲覧。